

ビジネスマナー

授業の目的・概要

本授業では、動物業界への就職を目指す学生が、現場で求められる基本的なビジネスマナーおよび社会人基礎力を体系的に習得することを目的とする。自己紹介や校舎見学を通じて基本的な対人行動や施設利用マナーを学び、研修旅行の事前・事後学習により動物関連施設の理解を深め、就職先としての視点を養う。さらに、名刺交換や電話対応の実践、デジタル履歴書や挨拶文・お礼状の作成など、実務に直結するスキルを段階的に習得する。加えて、職種や業務内容、必要な知識・技術・姿勢についての理解を深めることで自己分析を促し、職業適性の把握とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	社会人経験 8 年
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

インターンシップに必要な書類の準備が適切に行えるようになる。

デジタル履歴書やお礼状、挨拶文、インターン前の電話などを一人でも充分に行えるようになる。

授業の計画

- 1 回 自主行動型自己紹介
- 2 回 校舎見学(受付の利用方法や券売機の使い方・エレベーターマナー)
- 3 回 研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ(グループワーク)、ルールブック読み合わせ
- 4 回 研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討、学生要覧読み合わせ
- 5 回 研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有、名刺交換説明①
- 6 回 研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題、名刺交換説明②
- 7 回 研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化、名刺交換実践①
- 8 回 名刺交換実践②
- 9 回 デジタル履歴書作成方法①ダウンロード及び購入方法について
- 10 回 デジタル履歴書作成方法②個人情報
- 11 回 デジタル履歴書作成方法③学歴/職歴
- 12 回 デジタル履歴書作成方法④自己紹介書
- 13 回 デジタル履歴書作成方法⑤自己紹介書

- 14 回 挨拶文・お礼状作成①書き方
- 15 回 挨拶文・お礼状作成②実践
- 16 回 挨拶文・お礼状作成③実践
- 17 回 仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
- 18 回 仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 19 回 仕事内容理解③—1 日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 20 回 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 21 回 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理
- 22 回 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 23 回 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 24 回 電話対応①電話機操作方法、話し方、電話例
- 25 回 電話対応②実践 1 回目
- 26 回 電話対応③実践 1 回目
- 27 回 電話対応④実践 1 回目
- 28 回 電話対応⑤実践 2 回目
- 29 回 電話対応⑥実践 2 回目
- 30 回 総復習、振り返り

授業の方法

学校生活や就職、今後のキャリア形成に繋がる講義を行う。

教材

自作プリントを適宜配布する。

評価の方法

期末試験 50%、授業の取り組み意欲 50%を総合的に評価する。

授業外での学習方法

配布しているルールブック、学生要覧、インターンのしおりを見て重要な部分はメモをとる。

インターンシップに参加するまでにデジタル履歴書を仕上げる。

実務経験と授業科目の関係

2026 年度

実際の就活経験や社会人経験を踏まえ、学生のキャリア形成を支える。

コンピューター実習 I

授業の目的・概要

Microsoft Word: 基本的なビジネス文書の作成から、外部アプリケーションとのデータ連携（差し込み印刷等）に至るまで、実務に即した諸機能を習得する。

Microsoft Excel: 表計算の基礎からデータベース機能を活用した一連の操作を学習し、目的に応じた適切なデータ分析を行うための技術を習得する。

Microsoft PowerPoint: 効果的なプレゼンテーション資料の作成から、スライドショーを用いた説得力のある発表技術まで、一連の機能を習得する。

科	生命科学科	教員	大西 望
コース	S、ES 1、AQR、TEP、W、 D、VN 1	教員の 実務経験	講師経験：10 年、PC サポート 13 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期：

- パソコン操作に必要なマウス操作、タッチタイピングの習得
- Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションの作成を行える。
- Microsoft Word を使用して、ビジネス文書の作成が行える。

後期：

- Microsoft Excel を使用して、計算式・関数の計算、グラフの作成を行える。

授業計画

前期

第 0 1 回 :オリエンテーリング授業概要、評定基準、Google 共有ドライブ「2026 年度」の使い方

第 0 2 回 :Windows の概要、フォルダとファイルの管理、マウス操作

第 0 3 回 :PowerPoint (1) PowerPoint の概要、起動、画面構成、表示モード、新規作成、テーマの適用、プレースホルダーを操作する、新しいスライドを挿入する、箇条書き

第 0 4 回 :PowerPoint (2) 図形の挿入、SmartArt、練習問題

第 0 5 回 :PowerPoint (3) スライドショー実行、画面切り替え、アニメーション、プレゼンテーションの印刷、発表者ツールを使用、練習問題

第 0 6 回 :PowerPoint (4) PowerPoint の振り返り

第 0 7 回 :Word (1) 作成する文書を確認する、ページレイアウト、文書入力、文字の削除、挿入

第 0 8 回 :Word (3) 段落とフォントの調整コピー、移動、文書の保存、文章の書式を設定、文書の印刷、練習問題

第 0 9 回 :Word(4)文書作成の振り返り

第 1 0 回 :Word (5) ワードアート、画像データの挿入、文字列の折り返し、トリミング、サイズと位置の調整、

第 1 1 回 :Word (6) 表現力のある文書を作成しよう②オブジェクト、画像挿入の振り返り

第 1 2 回 :Word (7) 表のある文書を作成しよう表の作成、レイアウト、書式設定

第 1 3 回 :Word (7) 表のある文書を作成しよう①第 3, 4 章の振り返り、答え合わせ

第 1 4 回 :Word (8) 表のある文書を作成しよう②第 3, 4 章の振り返り、答え合わせ

第 1 5 回 :Word (9) 期末試験対策

第 1 6 回 :確認テスト

第 1 7 回 :自主学习 : Word でポスターを作る方法をレポートにまとめる。

第 1 8 回 :前期期末試験の返却

後期

第 1 9 回 :後期授業概要、評価基準

第 2 0 回 :Excel (1) Excel の概要、起動、画面構成、新規作成、データや数式の入力、オートフィル、書式のコピー

第 2 1 回 :Excel (2) データや数式の入力の振り返り

第 2 2 回 :Excel (4) オート SUM 関数、相対参照と絶対参照、表の書式設定、行列操作、印刷

- 第 2 3 回 :Excel (6) 関数や相対参照と絶対参照の振り返り
- 第 2 4 回 :Excel (7) 円グラフ、縦棒グラフの作成
- 第 2 5 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 2 6 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 2 7 回 :Excel (9) テーブル機能、並び替え、フィルター、条件付き書式
- 第 2 8 回 :Excel (1 0) データベース機能の振り返り
- 第 2 9 回 :Word の差し込み印刷
- 第 3 0 回 : 外部アプリからのデータを貼り付け
- 第 3 1 回 :Excel (1 1) 期末試験対策①データ入力、関数、グラフの振り返り
- 第 3 2 回 :Excel (1 2) 期末試験対策②データベース機能の振り返り
- 第 3 3 回 :確認テスト
- 第 3 4 回 :自宅学習②各種類のグラフの用途をレポートにまとめる
- 第 3 5 回 :確認テスト返却

授業の方法

コンピューターによる演習

教材

『よくわかる Word2024 & Excel2024 & PowerPoint2024 Office2024/Microsoft365 対応』
(株式会社富士通ラーニングメディア、2025 年 4 月 13 日、ISBN978-4-86775-152-7)

評価の方法

平常点、試験点をそれぞれ 100 点満点で成績を集計し、評価する。

- 平常点 : Google 共有ドライブ「2 0 2 6 年度」内に指定のファイルがあることことこと
- 試験点 : 前期・後期期末試験で集計した成績

授業外での学習方法

授業範囲の操作内容を確認し、Word・Excel・PowerPoint の基本機能や用語を事前に理解しておくことも

2026 年度

に、授業で学んだ操作を復習し、課題や練習問題を通して基本操作を繰り返し実践する。

実務経験と授業科目の関係

官公庁や教育機関での豊富な指導経験を基に、単なる機能紹介に留まらず、業務のスピードアップに直結する Microsoft アプリの効率的な活用法を伝授します。

事務処理や資料作成の現場で培った「ミスなく早く仕上げる」ための実戦ノウハウを共有し、実社会で通用する即戦力の育成を目指します。

人間形成概論

授業の目的・概要

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、
生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。

科	生 命 科 学 科	教員	長岡 真美 森田 陵介
コース	ワ イ ル ド ア ニ マ ル コ ー ス	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

多種多様な価値観を持つ他者の存在を認め、円滑な対人関係を築くための基本的な視点を養うとともに、グループワークや用語を知り、自身がどのような環境や経験を経て、現在の価値観を形成してきたかを分析する。

授業計画

- 1 回 講師の自己紹介,生徒同士の自己紹介
- 2 回 ディスカッションのやり方・PREP 法について
- 3 回 パーソナリティについて
- 4 回 対人認知 ステレオタイプ(1) -対人認知について
- 5 回 対人認知 ステレオタイプ(2) -原因帰属、対人魅力について
- 6 回 人間関係とコミュニケーション(1) -人間関係、コミュニケーションについて
- 7 回 人間関係とコミュニケーション(2) -言語的 or 非言語的コミュニケーションをグループで学ぶ
- 8 回 インターネット依存症について
- 9 回 感情について

- 10 回 ストレスについて(1) -ストレスとは
- 11 回 ストレスについて(2) -ストレスへの対処法とは
- 12 回 人生曲線を書き、過去と未来の自分を見つめてみる
- 13 回 アサーショントレーニングについて
- 14 回 前期まとめ(1) -前期授業のまとめ
- 15 回 前期まとめ(2) -前期内容についてのまとめ問題を実施
- 16 回 援助行動、要請に関する社会的スキル
- 17 回 交流分析とマインドフルネス(1) -コミュニケーションを理解する観察法
- 18 回 交流分析とマインドフルネス(2) -交流パターンの分析について
- 19 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -カウンセリングと悩み相談について
- 20 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -グループワークで実際に悩み相談を行って学ぶ
- 21 回 動機付け(1) -欲求、動機付けについて
- 22 回 動機付け(2) -情動、自己効力感について
- 23 回 集団について(1) -集団規範とは
- 24 回 集団について(2) -他者から与えられる影響について
- 25 回 コーチングについて
- 26 回 リーダーシップ(1) -リーダーシップの歴史について
- 27 回 リーダーシップ(2) -仕事での集団の形について
- 28 回 人間関係を難しくする障害
- 29 回 後期まとめ(1) -後期授業のまとめ
- 30 回 後期まとめ(2) -後期内容についてのまとめ問題を実施

授業の方法

講義、問題についてのレポートや討論、グループワーク

教材

山 蔦圭輔 本田周二『メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論』（南山堂、2021 年）

2026 年度

ISBN 978-4-525-50451-9

評価の方法

試験 80%、授業への参画 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

身の回りの事象が、授業内容とどのように関係しているのかを意識することと、
試験へ向けて、授業で出てきた用語をまとめる。

実務経験と授業科目の関係

授業で出てくる用語は、社会で生きていく上での人間関係構築に関することが多くある。
教員の実体験を含めながら説明していく。

陸上実習Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、バレーボール、バドミントン、バスケットボールなどの各種スポーツ実技を通して、基礎的な運動技能の習得と体力の向上を図るとともに、集団での協調性やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。授業は基礎練習から段階的に実施し、個人練習、ペア練習、チーム練習を経て試合形式へと発展させることで、技術の定着と実践力の向上を目指す。また、前期には体力テストや走力トレーニングを行い、基礎体力の把握と向上を図る。さらに、種目横断的な実技経験を通じて、スポーツへの理解を深め、継続的な運動習慣の形成と心身の健全な発達につなげる。

科	生命科学科	教員	高橋
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

心と体を一体にし、身体的な面だけでなく、どのような状態や感情で体の動き方が変わるのかを理解できる。

体の運動促進や健康状態を知り、その中で体を動かすことの楽しさや体力の向上を図り、様々な場で順応できる身体に仕上げることができる。

授業計画

- 第1週 授業説明・自己紹介（授業の実施方法 アイスブレイク）
バレーボール実技① 練習（一人での基礎練習 ボール取り方 投げ方 姿勢 サーブ練習）
- 第2週 バレーボール実技② 練習（周りと話し合いながらの練習 ボール取り方 投げ方 姿勢 サーブ練習）
- 第3週 バレーボール実技③ 練習（ペアになって練習 ボール取り方 投げ方 姿勢 サーブ練習）
- 第4週 バレーボール実技④ 練習（チームに分かれて、軽い試合形式で基礎練習を順に行う）
- 第5週 バレーボール実技⑤ 試合（チーム分けをおこない 本格的な試合の開始）
- 第6週 スポーツ大会のための基礎体力作り おこなう科目の練習
- 第7週 スポーツ大会のための基礎体力作り おこなう科目の練習
- 第8週 バドミントン実技① 練習（一人での基礎練習 ボール取り方 打ち方 打つときのコツ サーブ練習）
- 第9週 バドミントン実技② 練習（周りと話し合いながらの練習 ボール取り方 打ち方 打つときのコツ サーブ練習）
- 第10週 バドミントン実技③ 練習（ペアになって練習 ボール取り方 打ち方 打つときのコツ サーブ練習）
- 第11週 バドミントン実技④ 練習（チームに分かれて、軽い試合形式で基礎練習を順に行う）
- 第12週 バドミントン実技⑤ 試合（チーム分けをおこない 本格的な試合の開始）
- 第13週 前期試験練習① テストのための体力作り

2026 年度

第 14 週 前期試験練習② テストのための体力作り
第 15 週 前期試験練習③ テストのための体力作り
第 16 週 前期試験期間：体力テスト （握力テスト 反復横跳び 立ち幅跳び）
第 17 週 前期試験採点期間 自由実技 個人スポーツや団体スポーツなどの試合
第 18 週 前期試験返却期間 自由実技 個人スポーツや団体スポーツなどの試合
第 19 週 バスケットボール実技① 練習（一人での基礎練習 ボール運び方 ドリブルの仕方 サーブ練習 シュート練習）
第 20 週 バスケットボール実技② 練習（周り話し合いながらの練習 ボール運び方 ドリブルの仕方 サーブ練習 シュート練習）
第 21 週 バスケットボール実技③ 練習（ペアになって練習 ボール運び方 ドリブルの仕方 サーブ練習 シュート練習）
第 22 週 バスケットボール実技④ 練習（チームに分かれて、軽い試合形式で基礎練習を順に行う）
第 23 週 バスケットボール実技⑤ 試合（チーム分けをおこない 本格的な試合の開始）
第 24 週 バレーボール実技 試合
第 25 週 バドミントン実技 試合
第 26 週 バスケットボール実技 試合
第 27 週 前期試験練習① テストのための体力作り 外周や走り込み
第 28 週 前期試験練習② テストのための体力作り 外周や走り込み
第 29 週 前期試験練習③ テストのための体力作り 外周や走り込み
第 30 週 前期試験期間：体力テスト （シャトルラン）
第 31 週 前期試験採点期間 自由実技 個人スポーツや団体スポーツなどの試合
第 32 週 前期試験返却期間 自由実技 個人スポーツや団体スポーツなどの試合
第 33 週 バスケットボール実技 試合
第 34 週 バドミントン実技 試合
第 35 週 バレーボール実技 試合

授業の方法

基礎体力作りや練習試合などをおこない、実習をおこなう。

教材

とくになし

評価の方法

授業参加 10%、実技での取り組み（試合に参加できているかなど） 40%、授業態度 20%、試験 30%

授業外での学習方法

動画や、本などで身体の動き方を学ぶ。

体力をつけるために 1 分運動などで、身体を動かすことを日常化させ、身体に学習させていく

実務経験と授業科目の関係

-

インターンシップ I

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを経験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全コース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション
- 第 4 回 インターンシップ② 施設見学と業務内容の把握
- 第 5 回 インターンシップ③ 接客・来客対応の補助
- 第 6 回 インターンシップ④ 電話対応・受付業務の補助
- 第 7 回 インターンシップ⑤ 施設内清掃・衛生管理業務
- 第 8 回 インターンシップ⑥ 飼育環境の整備と安全確認
- 第 9 回 インターンシップ⑦ 動物の健康観察と記録
- 第 10 回 インターンシップ⑧ 給餌・給水業務の補助
- 第 11 回 インターンシップ⑨ 動物の保定補助

2026 年度

第 12 回	インターンシップ⑩	日常ケア業務の補助
第 13 回	インターンシップ⑪	施設備品・消耗品管理
第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮
第 31 回	インターンシップ㉙	担当業務の実践⑯
第 32 回	インターンシップ㉚	担当業務の実践⑰
第 33 回	インターンシップ㉛	担当業務の実践⑱
第 34 回	インターンシップ㉜	総合実践・就業力向上
第 35 回	インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理	

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

2026 年度

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼養管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動 I

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全コース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）

2026 年度

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 第 18 回 | KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解） |
| 第 19 回 | KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認） |
| 第 20 回 | KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成） |
| 第 21 回 | KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成） |
| 第 22 回 | KAP エキスポへの参加 |
| 第 23 回 | KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理） |
| 第 24 回 | KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有） |
| 第 25 回 | 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解） |
| 第 26 回 | 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法） |
| 第 27 回 | 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理） |
| 第 28 回 | 卒業研究発表会への参加 |
| 第 29 回 | 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有 |
| 第 30 回 | 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定） |

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。
事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

基礎生物学

授業の目的・概要

本授業では、生物学の基礎知識を体系的に学び、生命現象を科学的に理解する力を養う。細胞の構造と機能、代謝、遺伝子と DNA、体細胞分裂・減数分裂など、生物の基本原理を学習するとともに、循環器系・消化器系・神経系・内分泌系・免疫など、ヒトを中心とした体の仕組みと恒常性について理解を深める。また、生物の分類や多様性、生態系の成り立ちについて学び、生物同士のつながりや環境との関係性を考察する力を育成する。試験後には振り返りや自主学習を取り入れ、知識の定着を図るとともに、動物分野を学ぶ上で必要となる基礎的な科学的思考力を身につける。

科	生命科学科	教員	鈴木 春雄
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期…生体を構成する細胞をはじめ、組織、遺伝子、主な臓器について学習する。

後期…生体防御、体内環境、神経系や内分泌系等の構造や働きについて学習する。

授業計画

- 第 1 回 生物の多様性と共通性
- 第 2 回 細胞（1）（特徴、大きさ、真核・原核細胞）
- 第 3 回 細胞（2）（細胞構造とその働き）
- 第 4 回 代謝とエネルギー・ATP
- 第 5 回 酵素の働き
- 第 6 回 遺伝子情報と DNA
- 第 7 回 体細胞分裂
- 第 8 回 遺伝情報の発現（1）（転写、翻訳）
- 第 9 回 遺伝情報の発現（1）（タンパク質とその合成）
- 第 10 回 減数分裂
- 第 11 回 体内環境と恒常性
- 第 12 回 循環器系（心臓）
- 第 13 回 肝臓の働き、腎臓の働き
- 第 14 回 腎臓の働き、消化器系の働き
- 第 15 回 前期まとめ
- 第 16 回 生体防御（1）（免疫とは）
- 第 17 回 生体防御（2）（適応免疫の仕組み）

第 18 回 生体防御（3）（免疫異常と病気、予防接種）
第 19 回 ヒトの神経系
第 20 回 自律神経（交感神経、副交感神経）
第 21 回 内分泌系（1）（ホルモンとその働き）
第 22 回 内分泌系（2）（内分泌腺について）
第 23 回 体内環境（1）（糖尿病と血糖値）
第 24 回 体内環境（2）（体温、体液）
第 25 回 生物の分類
第 26 回 生物の多様性（原核生物界、原生生物界等）
第 27 回 まとめ
第 28 回 生物の多様性と生態系（1）（植生、階層構造、バイオーム）
第 29 回 生物の多様性と生態系（2）（生態系、生態系の成り立ち、食物連鎖）
第 30 回 1 年間の総まとめ

授業の方法

教材と板書

教材

浜島書店『生物図表』

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に判断する。

授業外での学習方法

事前学習では、授業で扱う単元について教科書や配布資料を読み、専門用語や基本事項を確認しておく。事後学習では、授業ノートやプリントを見直し、重要語句や仕組みを整理するとともに、演習問題や自主学習課題に取り組み、知識の定着を図る。さらに、日常生活や動物分野との関連について考察し、理解を深める。

実務経験と授業科目の関係

-

動物関連法規学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、動物業界で必要となる関連法規の基礎知識を学び、動物を取り巻く社会的課題や法的責任について理解を深める。狂犬病予防法では、狂犬病に関する基礎知識や予防制度、登録・注射義務、輸入規制などを学習する。また、動物の死後に関する法的取り扱いや廃棄物処理に関する法律について理解を深める。さらに、動物愛護管理法の成立背景や目的、飼い主の責任、動物虐待への罰則、動物取扱業の規制、特定動物、マイクロチップ制度などを体系的に学ぶ。授業を通じて、法令遵守の意識を高め、動物福祉に配慮した適切な行動ができる人材の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・ 法律の仕組み、狂犬病予防法など動物に関わる以上は必須となる制度について理解できるようになる。
- ・ 動物愛護法を中心にペットビジネスや動物を飼育する際に知っておくべき事柄や制度について理解できるようになる。

授業計画

- 1 回 授業概要紹介、自己紹介など
- 2 回 犬猫飼養頭数、動物に関する社会の現状など
- 3 回 狂犬病予防法（1）狂犬病とは その1
- 4 回 狂犬病予防法（2）狂犬病とは その2
- 5 回 狂犬病予防法（3）狂犬病清浄国・地域について
- 6 回 狂犬病予防法（4）狂犬病予防法の概要 その1 法の概要、目的
- 7 回 狂犬病予防法（5）狂犬病予防法の概要 その2 対象動物、輸入禁止動物（感染症法）
- 8 回 狂犬病予防法（6）狂犬病予防法の概要 その3 畜犬登録、狂犬病予防注射制度
- 9 回 狂犬病予防法（7）狂犬病予防法の概要 その4 罰則など
- 10 回 動物が亡くなった場合（1）動物や動物の死体の法的立場
- 11 回 動物が亡くなった場合（2）廃棄物処理法と化製場法と動物

- | | | |
|------|---------------------------------|------|
| 12 回 | 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか | その 1 |
| 13 回 | 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか | その 2 |
| 14 回 | 動物愛護法（1）法律の成立背景 | その 1 |
| 15 回 | 動物愛護法（2）法律の成立背景 | その 2 |
| 16 回 | 動物愛護法（3）目的 | |
| 17 回 | 動物愛護法（4）基本原則 | |
| 18 回 | 動物愛護法（5）動物の飼い主の責任 | その 1 |
| 19 回 | 動物愛護法（6）動物の飼い主の責任 | その 2 |
| 20 回 | 動物愛護法（7）動物虐待に対する罰則 | その 1 |
| 21 回 | 動物愛護法（8）動物虐待に対する罰則 | その 2 |
| 22 回 | 動物愛護法（9）動物取扱業の規制 | その 1 |
| 23 回 | 動物愛護法（10）動物取扱業の規制 | その 2 |
| 24 回 | 動物愛護法（11）動物取扱業の規制 | その 3 |
| 25 回 | 動物愛護法（12）動物取扱業の規制 | その 4 |
| 26 回 | 動物愛護法（13）第 2 種動物取扱業、実験動物と産業動物、 | |
| 27 回 | 動物愛護法（14）特定動物 | その 1 |
| 28 回 | 動物愛護法（15）特定動物 | その 2 |
| 29 回 | 動物愛護法（16）マイクロチップの装着 | |
| 30 回 | 動物愛護法（17）自治体の役割 | |

授業の方法

講義

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

1 回 1 回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

2026 年度

実務経験と授業科目の関係

動物分野を専門とする行政書士として長らくペットや野生動物分野の許認可を含む法律事務業務を行っており、ペットビジネスのサポートを行っている。それらの経験を下地に、主にペットに関する法律を詳しく解説していく

動物園学Ⅰ

授業の目的・概要

動物園の歴史、動物園の社会的役割や直面している課題、それに対する取り組みなど外側からでは見えてこない動物園の姿を知るとともに、動物園・水族館の展示手法や動物福祉、飼育員の仕事など動物飼育員として必要な基礎知識を習得する。

科	生命科学科	教員	花木 久実子
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

前期

西洋と日本の動物園の歴史について学習する

現代の動物園の現状と課題について学習する

動物園や水族館での展示手法や飼育係、獣医師の役割について学習する

後期の学習内容

動物園の保全生物学、野生復帰について学習する

動物福祉、エンリッチメントについて学習する

授業計画

- 1 回 動物園の役割
- 2 回 動物園の飼育動物
- 3 回 西洋の動物園の歴史
- 4 回 DVD 視聴 世界の動物園（チューリッヒ動物園、ヘンリードリー動物園等）
- 5 回 日本の動物園の歴史
- 6 回 DVD 視聴 日本の動物園の歴史「そうだ動物園へ行こう」
- 7 回 日本の動物園の歴史（諏訪山動物園）
- 8 回 水族館の歴史
- 9 回 動物園の課題（ゾウの飼育と希少種の繁殖）

- | | |
|------|----------------------------|
| 10 回 | 飼育施設と展示（動物園） |
| 11 回 | 飼育施設と展示（水族館） |
| 12 回 | 動物園の飼育係 1 |
| 13 回 | 動物園の飼育係 2 |
| 14 回 | 動物園の獣医師 |
| 15 回 | 前期まとめ |
| 16 回 | DVD 視聴 世界の動物園（シェーンブルン動物園） |
| 17 回 | 動物園の調査研究 1 |
| 18 回 | 動物園の調査研究 2 |
| 19 回 | 動物園の保全生物学（野生動物の現状） |
| 20 回 | 動物園の保全生物学（野生生物を絶滅から守る取り組み） |
| 21 回 | 動物園の保全生物学（動物園の役割、野生復帰） |
| 22 回 | 動物講話（ジャイアントパンダ） |
| 23 回 | DVD 視聴「パンダ山へ帰る」 |
| 24 回 | 動物福祉/アニマルウェルフェア |
| 25 回 | 動物園の動物福祉 |
| 26 回 | 動物園のエンリッチメント |
| 27 回 | 個体識別と情報管理 |
| 28 回 | 動物園てなんだろう |
| 29 回 | 震災と動物園 |
| 30 回 | 後期まとめ |

授業の方法

テキスト、パワーポイントを使用した講義及び DVD の視聴

教材

授業時に配布する資料、DVD、「新・飼育ハンドブック」（日本動物園水族館協会編）

評価の方法

期末試験 60%、レポート 20%、授業態度 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

2026 年度

身近な動物園や水族館へ行き、授業で学んだ内容を現場で確認する。授業の疑問点、興味を持った点について自分で調べてノートに記録しておく。

実務経験と授業科目の関係

動物園獣医師及び飼育展示係長としての現場での経験、副園長としての組織マネジメント経験及び日本動物園水族館協会でのゾウ専門委員、教育普及部門委員としての経験を踏まえ、飼育展示と管理運営に役立つ実践的な知識と技術を講義する。

生体管理概論・実習 I

授業の目的・概要

前期後期を通じて動物を扱う仕事（ペットショップ、動物園、水族館、動物保護スタッフ）や愛玩動物飼養管理士など資格で必要な動物飼育方法・生体管理方法を身につける。具体的には、飼育棟内小動物・鳥・家畜動物・魚類の飼育方法や健康管理方法を実践実習を通して習得する。

前期では基本的な飼育などの実技学習を通じた授業で時間内での業務を意識した生体管理を行うことを目標にする。後期では実際の職場などでも用いられる実践的な内容の学習を行うことを目標にする。

科	生命科学科	教員	金田、植田、濱崎
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

前期

- ・飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。危険予測や常に安全を考慮した行動することができるようになる。
- ・実習活動時にメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談などの社会人に必要なスキルを身に着ける。

後期

- ・前期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。
- ・グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う。
- ・就職や進級時の卒業研究に役立つ実践的なスキル・知識を身に着ける。

授業計画

[前期]

第1週 小動物飼育 生体管理について（飼育管理について、動物の基礎知識）

水槽管理 生体管理について（飼育管理について、動物の基礎知識）

第2週 小動物飼育 生体管理について（飼育動物の飼育方法）

水槽管理 生体管理について（飼育動物の飼育方法）

第3週 小動物飼育 生体管理について（設備・用品等の使用方法）

水槽管理 生体管理について（設備・用品等の使用方法）

第4週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）

水槽管理 ヒョウモントカゲモドキ（レオパードゲッコー）飼育実践

第 5 週 小動物飼育 掃除・給餌について飼育実践

水槽管理 水換えについて(RO 水や浄水器説明、人工海水作成含む)、パッキングについて

第 5 週 小動物飼育 健康管理について飼育実践

水槽管理 水槽の掃除、美化について

第 6 週 小動物飼育 保定方法について飼育実践

水槽管理 機材メンテナンスについて

第 7 週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）

水槽管理 病気についてと魚の健康チェックについて(魚の導入含む)

第 8 週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水槽管理 魚の健康管理について

第 9 週 小動物飼育 ウサギの飼育実践（飼育作業）

水槽管理 餌について

第 10 週 小動物飼育 ウサギの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水槽管理 バクテリアについて

第 11 週 小動物飼育 モルモットの飼育実践（飼育作業）

水槽管理 水質について①-主に淡水(水質検査含む)

第 13 週 小動物飼育 モルモットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水質について②-主に淡水(水質検査含む)

第 14 週 小動物飼育 フェレットの飼育実践（飼育作業）

ろ過について

第 15 週 小動物飼育 フェレットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水槽の立ち上げについて

第 16 週 前期試験

第 17 週 前期まとめ・調べ学習

第 18 週 試験返却・試験の振り返り

[後期]

第 19 週 小動物飼育 チンチラの飼育実践（飼育作業）

レイアウトについて-淡水編

第 20 週 小動物飼育 チンチラの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

レイアウトについて-海水編

第 21 週 小動物飼育 デグーの飼育実践（飼育作業）

コケの種類と原因、対策について（基礎）

第 22 週 小動物飼育 デグーの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

コケの種類と原因、対策について（応用）

第 23 週 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（飼育作業）

水草育成について①-種類、育成環境

第 24 週 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

2026 年度

水草育成について②-維持管理

第 25 週 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（飼育作業）

サンゴ育成について①-種類、育成環境

第 29 週 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

サンゴ育成について②-維持管理

第 30 週 後期試験

第 31 週 後期まとめ・調べ学習

第 32 週 試験返却・試験の振り返り

第 33 週 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（飼育作業）

水槽管理における淡水と海水の違い

第 34 週 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水槽のリセットについて(半リセット含む)

第 35 週 1 年の振り返り

授業の方法

講義形式にて飼育の基礎を理解した後、実習を行っていく。

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編・鳥類編 その他配布資料

評価の方法

試験 80%、平常点 20%（出席率や授業態度、ノート提出）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェック

エキゾチックアニマル、両生爬虫類、飼育用品概論のノートの見直し

実務経験と授業科目の関係

動物飼育の実務経験を有しており、日常的な給餌・清掃・健康管理から個体ごとの観察や環境整備まで幅広い現場経験を持つ。その経験を活かし、小動物および水生生物の飼育管理や健康管理について、実務に即した具体的な指導を行うことで、現場対応力の育成に寄与する。

ワイルド実習

授業の目的・概要

ワイルド実習は、動物業界への就職を目指す学生に対し、座学とグループワークを通じて業界理解と実務基礎力の育成を目的とする。動物園・ペット・保護活動など多様な分野を横断的に学び、動物福祉や倫理観に基づく判断力を養う。さらにイベント企画・運営や広報活動の演習を通じて、企画力・コミュニケーション能力・協働性を高める。加えて就職活動に必要な自己分析、履歴書作成、面接対策を行い、現場で求められる人材像への適応を図る。最終的に実社会で即戦力となる基礎力の形成を目指す。

科	生命科学科	教員	金田
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	4 単位

目標

- ・動物業界の職種や業務内容を理解し、説明できる
- ・動物福祉や倫理に基づいた基本的な判断ができる
- ・グループで協力しながらイベント企画・発表を行うことができる
- ・就職活動に必要な自己分析・履歴書作成・面接対応の基礎を身に付ける

授業計画

- 第 1 週 オリエンテーション（授業概要説明・評価方法・年間目標設定・自己紹介）
- 第 2 週 動物業界の全体像①（動物関連職種の分類と役割理解）
- 第 3 週 動物業界の全体像②（動物園・ペット業界・保護団体などの違い）
- 第 4 週 動物福祉と倫理①（動物愛護法・基本概念）
- 第 5 週 動物福祉と倫理②（現場での事例検討グループワーク）
- 第 6 週 業界で求められる人材像（企業が重視するスキル・姿勢）
- 第 7 週 コミュニケーション基礎①（報連相・ビジネスマナー）
- 第 8 週 コミュニケーション基礎②（ロールプレイ・接客対応）
- 第 9 週 チームワーク演習①（グループ課題の進め方）
- 第 10 週 チームワーク演習②（小規模企画ワーク）
- 第 11 週 イベント企画基礎①（企画立案の流れ）
- 第 12 週 イベント企画基礎②（テーマ設定とターゲット分析）
- 第 13 週 イベント企画実践①（グループ企画作成）
- 第 14 週 イベント企画実践②（プレゼン資料作成）
- 第 15 週 中間発表①（グループ企画発表・フィードバック）

- 第 16 週 中間発表②振り返り（改善点整理・再設計）
- 第 17 週 動物関連イベントの事例研究（動物園・保護イベント等）
- 第 18 週 広報・SNS 活用基礎（情報発信の基本）
- 第 19 週 集客とマーケティング基礎（ターゲットと導線設計）
- 第 20 週 ポスター・チラシ制作①（デザイン基礎）
- 第 21 週 ポスター・チラシ制作②（実制作・修正）
- 第 22 週 外部発表準備①（発表練習・役割分担）
- 第 23 週 外部発表準備②（プレゼン強化・質疑対策）
- 第 24 週 模擬イベント運営①（役割分担・シミュレーション）
- 第 25 週 模擬イベント運営②（改善版運営）
- 第 26 週 就職活動基礎①（履歴書の書き方）
- 第 27 週 就職活動基礎②（志望動機作成）
- 第 28 週 面接対策①（基本質問と回答）
- 第 29 週 面接対策②（グループ模擬面接）
- 第 30 週 自己 PR 作成演習（強みの言語化）
- 第 31 週 ポートフォリオ作成（活動記録・成果整理）
- 第 32 週 業界ゲスト講話（想定）（現場スタッフの話を聞く）
- 第 33 週 最終企画準備①（総合イベント企画作成）
- 第 34 週 最終発表準備②（最終調整・リハーサル）
- 第 35 週 最終発表会（プレゼンテーション・講評・振り返り）

授業の方法

講義形式での説明もするが、実践的な学びを中心に進めていく。

教材

必要な資料は授業中に配布する。

評価の方法

試験 40%、授業への参画 20%、成果物発表 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、授業テーマに関連する動物業界の職種や事例を調べ、基礎知識を整理する。事後学習として、授業内容を振り返り、配布資料やグループワークの成果をまとめ、自己の理解不足や改善点を確認することで学習内容の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

2026 年度

動物の飼育管理や接客、現場での安全管理など実務に基づいた具体的な知識を学ぶことができる。また、観光牧場特有の「教育・観光・動物福祉」のバランスについても実例を交えて理解を深め、就職後に求められる実践的な視点を養うことができる。

エキゾチックアニマル I

授業の目的・概要

本授業では、エキゾチックアニマルに関する基礎知識および飼育管理、健康管理に必要な知識を体系的に修得することを目的とする。ハムスター、ウサギ、モルモット、フェレット、チンチラなどの代表的なエキゾチックアニマルについて、生理学的特徴、行動特性、繁殖、適切な飼育方法および主な疾病について学び、種ごとの違いを理解する。また、それぞれの動物に適した飼育環境や健康管理方法を身に付けることで、動物看護の現場において適切な助言や対応ができる基礎的能力を養う。さらに、適正飼養の観点から動物福祉に配慮した知識の定着を図る。

科	生命科学科	教員	吉原
コース	生命科学科(WLD)	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

前期

エキゾチックアニマルの概要、ペットや飼育動物の定義を理解し、説明できるようになる。

ハムスターについての生態や特徴、飼育時の注意や病気について理解し、説明できるようになる。

後期

ウサギ、モルモットについての生態や特徴、飼育時の注意や病気について理解し、説明できるようになる。

授業計画

第1週 オリエンテーション（アイスブレイク・自己紹介／エキゾチックアニマルの概要）

第2週 ハムスターの基礎知識と特徴

第3週 ハムスターの特徴と生理学的特徴

第4週 ハムスターの繁殖と飼育管理

第5週 ハムスターの飼育と疾患

- 第 6 週 ウサギの基礎知識と特徴
- 第 7 週 ウサギの特徴と生理学的特徴
- 第 8 週 ウサギの繁殖と飼育管理
- 第 9 週 ウサギの飼育と疾患
- 第 10 週 小テスト／モルモットの基礎知識
- 第 11 週 モルモットの特徴と生理学的特徴
- 第 12 週 モルモットの繁殖と飼育管理
- 第 13 週 モルモットの飼育と疾患
- 第 14 週 試験対策（総合復習①）
- 第 15 週 試験対策（総合復習②）
- 第 16 週 前期試験
- 第 17 週 オリエンテーション（後期授業の概要）
- 第 18 週 フェレットの基礎知識と特徴
- 第 19 週 フェレットの生理学的特徴と繁殖
- 第 20 週 フェレットの飼育と疾患
- 第 21 週 復習・小テスト
- 第 22 週 チンチラの基礎知識と特徴
- 第 23 週 チンチラの生理学的特徴と繁殖
- 第 24 週 チンチラの飼育と疾患
- 第 25 週 復習・小テスト
- 第 26 週 試験対策（総合復習③）
- 第 27 週 試験対策（総合復習④）
- 第 28 週 試験対策（総合復習⑤）

2026 年度

第 29 週 総合復習（重要ポイント整理）

第 30 週 総合復習（ケーススタディ）

第 31 週 総合復習（応用問題演習）

第 32 週 総合復習（グループ学習）

第 33 週 総合整理・最終確認

第 34 週 後期試験

第 35 週 総まとめ（年間の振り返り）

授業の方法

講義

教材

霍野晋吉 横須賀誠『カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編』（緑書房、2012 初版）

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として各回の小動物に関する情報を、書籍・文献等を活用して仕入れておく。

事後学習として各回のポイントをノートにまとめ、復習する。

実務経験と授業科目の関係

-

基礎健康管理学 I

授業の目的・概要

本授業では、犬を中心とした愛玩動物の健康維持に必要な基礎知識と日常管理技術を学ぶことを目的とする。散歩や運動、排泄管理、ブラッシングやシャンプーなどの手入れ方法をはじめ、熱中症予防、ワクチン、寄生虫予防、デンタルケア、不妊去勢など健康管理に関する基本事項を体系的に学習する。また、栄養学や療法食、動物福祉について理解を深め、飼い主への適切な指導や助言ができる力を養う。動物の小さな変化に気づく観察力と、健康で安全な飼育環境を支える実践的知識の習得を目指す。

科	生命科学科	教員	寺鼻 友美
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	動物病院勤務 7 年・一般企業営業 5 年・ペット用品卸の会社広報(営業)1 年半
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物の健康管理における基礎知識として、排泄（糞便・尿）の観察ポイントや、眼・耳等の全身ケアを習得し、ロールプレイング演習を通じ飼い主への説明スキルを身につける。
 - ・各種疾病予防（ワクチン、寄生虫対策、不妊去勢手術、デンタルケア、食事指導(療法食)）の重要性を習得し、ロールプレイング演習を通じ飼い主への説明スキルを身につける。
- また動物福祉について学び対飼い主教育に必要な倫理観を培うことができる。

授業計画

- 1 回 自己紹介 授業について
- 2 回 散歩、運動
- 3 回 排尿、排便

- 4 回 全身の手入れ①(ブラッシング/シャンプー)
- 5 回 全身の手入れ②(耳/爪)
- 6 回 全身の手入れ③(眼/肛門)
- 7 回 熱中症について①
- 8 回 熱中症について②
- 9 回 犬の登録
- 10 回 狂犬病
- 11 回 消毒・希釈について
- 12 回 混合ワクチン①
- 13 回 混合ワクチン①
- 14 回 混合ワクチン②
- 15 回 前期のまとめ(試験対策)
- 16 回 デンタルケア①
- 17 回 デンタルケア②
- 18 回 不妊去勢
- 19 回 フィラリア予防①
- 21 回 フィラリア予防②
- 22 回 内部寄生虫予防①
- 23 回 内部寄生虫予防②
- 24 回 外部寄生虫予防①
- 25 回 外部寄生虫予防②
- 26 回 看護学的基礎栄養学・食事指導・療法食について①
- 27 回 看護学的基礎栄養学・食事指導・療法食について②
- 28 回 愛玩動物における福祉
- 29 回 冬に起こりやすいトラブル・疾患について
- 30 回 後期のまとめ(試験対策)

授業の方法

座学、グループワーク

教材

2026 年度

コンパニオンアニマルの新健康管理学

⇒(著者：浅野妃美・浅野隆司 発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025 年 3 月 27 日)

愛玩動物看護師コアカリキュラム準拠教科書 3 巻

⇒(監修者：小野文子 発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2022 年 3 月 4 日)

評価の方法

70%、授業への参画 10%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

事前学習として、次回の内容のタイトルを伝えるので該当教科書ページを読んでおく。自身で調べておく。

事後学習として、配布プリントで復習を行い不明点は調べるもしくは次回質問をさせる。

実務経験と授業科目の関係

動物看護師としての勤務経験とペット用品卸会社広報の経験から、ペット動物の健康管理に必要な知識・スキルを多角的に伝えることができる。

公衆衛生学 I

授業の目的・概要

動物にかかわる職業人として必要な人と動物の健康保持・推進のための専門的知識を身につける。また、近年環境破壊等の人間活動を原因とする新興感染症・再興感染症の台頭が地球規模で問題となっており、これらの多くが人獣共通感染症であることから、人、動物、環境のかかわりについてグローバルな視点を持った人物になれるよう学習をすすめる。

科	生命科学科	教員	花木 久実子
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・ 公衆衛生の基本となる国民衛生の動向や疫学調査について学ぶ。
- ・ 感染症の基本的知識（疫学、病原体、感染、免疫、防疫等）やおもな細菌性・ウイルス性・寄生虫性人獣共通感染症、食中毒等の各論について発生・感染源・流行・予防措置等を学ぶことにより、人と動物を共に感染症から守るための対策を講じ、周囲に対する啓発活動ができるようになる。
- ・ 地球環境問題に対する意識をもって人獣共通感染症の問題点を考えられるようになる。

授業計画

- 1 回 公衆衛生とは
- 2 回 国民衛生の動向
- 3 回 疫学と疾病予防
- 4 回 感染症の基礎 1（病原体とは）
- 5 回 感染症の基礎 2（細菌、真菌、ウイルス、寄生虫）
- 6 回 感染症の基礎 3（感染成立の要因、免疫、予防）
- 7 回 人獣共通感染症総論
- 8 回 細菌性人獣共通感染症各論 1（ペスト、結核、炭疽、野兔病、ブルセラ症、細菌性赤痢等）
- 9 回 細菌性人獣共通感染症各論 2（腸管出血性大腸菌感染症、破傷風、猫ひっかき病等）
- 10 回 細菌性人獣共通感染症各論 3（レプトスピラ病、カンピロバクター症、Q 熱等）
- 11 回 細菌性人獣共通感染症各論 4（つつが虫病、オウム病、紅斑熱群リケッチア症等）

- | | |
|------|---|
| 12 回 | 寄生虫性人獣共通感染症各論 1（原虫、線虫） |
| 13 回 | 寄生虫性人獣共通感染症各論 2（吸虫） |
| 14 回 | 寄生虫性人獣共通感染症各論 3（条虫） |
| 15 回 | 前期まとめ |
| 16 回 | ウイルス性人獣共通感染症各論 1（ウイルス性出血熱、日本脳炎等） |
| 17 回 | ウイルス性人獣共通感染症各論 2（デング熱、黄熱、ジカウイルス感染症等） |
| 18 回 | ウイルス性人獣共通感染症各論 3（重症熱性血小板減少症候群、鳥インフルエンザ等） |
| 19 回 | ウイルス性人獣共通感染症各論 4（COVID-19 感染症、B ウイルス感染症等） |
| 20 回 | 狂犬病について |
| 21 回 | 真菌性人獣共通感染症、公衆衛生上重要な衛生昆虫 |
| 22 回 | 新興感染症・再興感染症について |
| 23 回 | 食中毒 1（原因、発生状況、予防） |
| 24 回 | 食中毒 2（細菌性食中毒） |
| 25 回 | 食中毒 3（ウイルス性食中毒、寄生虫性食中毒） |
| 28 回 | 食中毒 3（自然毒やカビ毒による食中毒） |
| 29 回 | 食品衛生法の概要 |
| 30 回 | 後期まとめ |

授業の方法

パワーポイントによる講義

教材

授業前に資料を配布する

評価の方法

期末試験 60%、レポート 20%、授業態度 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

厚生労働省のウェブサイト等により人獣共通感染症や食中毒に関する基礎知識を予習しておく。

実際に発生した感染症や食中毒に関するニュース等を日常的にチェックしてノートにまとめておく。

また、授業内容で疑問に思ったこと、興味を持ったことを整理しておく。

2026 年度

実務経験と授業科目の関係

公衆衛生獣医師として自治体保健所や監視事務所等において食品衛生、環境衛生、動物衛生及び感染症予防業務に従事した経験に基づき実践的な授業を行う

飼育用品概論 I

授業の目的・概要

本授業では、犬や猫を中心とした飼育用品について基礎から体系的に学び、動物の健康維持や快適な生活環境づくりに必要な知識を身につけることを目的とする。ライフステージや動物種ごとの特性、動物福祉の視点を踏まえながら、フード、住環境用品、ケア用品、移動用品、しつけ用品など多様な飼育用品の特徴や適切な選び方を理解する。また、安全性や素材、誤飲・中毒防止、市場トレンドや飼い主ニーズについても学習し、実際の接客や提案に活かせる力を養う。さらに、高齢動物や特殊な飼育環境への対応、エンリッチメントの考え方について理解を深め、動物と飼い主双方に配慮できる実践的な知識の習得を目指す。

科	生命科学科	教員	津田
コース	スモールアニマルコース ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	ペットショップ歴 6 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

一年を通してペットショップで取り扱われている用品全般の特徴や使用方法、注意点などを把握し生体ごとの適している物などについて理解をし、接客などで話すことができる。

授業計画

- 1 回 飼育用品概論 I とは、何をしていくか
- 2 回 犬と猫の違いから見る用品の考え方
- 3 回 ライフステージ別用品の説明
- 4 回 動物福祉と飼育用品の関係
- 5 回 安全性と素材(誤飲・中毒・耐久性)
- 6 回 飼い主様のニーズと市場トレンド(SNS・高機能化)
- 7 回 フードの種類(ドライ・ウェット・療法食)
- 8 回 食器と給水器の種類
- 9 回 自動機器の仕組みと活用
- 10 回 おやつ・サプリメントと注意点
- 11 回 ケージ・クレート・サークルの違いや選び方
- 12 回 ベッド・マットの種類や選び方
- 13 回 トイレ用品について

2026 年度

- | | |
|------|---------------------|
| 14 回 | 猫のトイレ砂の種類と特徴 |
| 15 回 | 前期のまとめ |
| 16 回 | 室内環境(湿度・温度・空調グッズ) |
| 17 回 | 首輪・ハーネス・リードの種類 |
| 18 回 | キャリーケース・移動用品 |
| 19 回 | 散歩グッズ（マナー用品・安全用品） |
| 20 回 | 迷子防止用品（迷子札・GPS など） |
| 21 回 | 多頭飼育・大型犬・特殊ケース用品 |
| 22 回 | ブラシ・コームの種類と使い分け |
| 23 回 | シャンプー・ケア用品（皮膚・被毛） |
| 24 回 | 爪切り・耳掃除・デンタルケア用品 |
| 25 回 | ノミ・ダニ対策用品 |
| 26 回 | 高齢動物向け用品（介護グッズ） |
| 27 回 | おもちゃの種類と役割（ストレス・運動） |
| 28 回 | 知育トイ・エンリッチメント |
| 29 回 | しつけ用品（トレーニンググッズ） |
| 30 回 | 後期のまとめ |

授業の方法

グループディスカッション・座学

教材

なし

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業で扱う飼育用品や動物種について事前に調べ、用品の用途や特徴、疑問点を整理したうえで授業に臨む。授業後は配布資料やノートを見直し、用品ごとの特徴や適切な使用方法を復習するとともに、店舗やオンライン情報を活用して理解を深める。

実務経験と授業科目の関係

2026 年度

ペットショップでの実務経験を活かし、実際の販売現場や飼い主対応を踏まえながら、飼育用品の特徴や選び方、提案方法について実践的に学ぶことができる。

自然環境保全学

授業の目的・概要

SDGs やネイチャーポジティブなどの世界的な目標を達成するためには、私たちひとりひとりが、「地球市民（global citizen）」として環境保全に対する意識を高めなければなりません。この授業では、自然環境から私たちが受けている恩恵（生態系サービス）について学びます。また、自然生態系の成り立ち、生物多様性、生物間相互作用、物質生産、資源循環などの生態系機能についての理解を深め、これらを保全するために何が必要か考えます。行政の環境、造園、林業職をはじめ、建設・環境コンサルタント、公園管理などの企業に就職する人材に必要な基礎知識および観察力を身に着けることを目的とします。

就職をキーワードに、学生が就職に近づけるよう記述にする（科目を通して育成したい人物像）。

* 主語は学生（～について説明します、講義します、など教員が主語となる書き方は NG）。

* 授業の手段を記載するわけではないことに注意。

科	生命科学科	教員	石井 弘明
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・ 自然環境の恩恵（生態系サービス）について理解し、それを持続するために行動できるようになる。
- ・ 生態系の構造と機能を理解し、これを保全するために行動できるようになる。
- ・ 生態系を構成する生物の多様性と相互作用について理解し、野生生物と人間が共存できる社会の実現に寄与できる人材となる。
- ・ 森林をはじめとする日本の自然環境に関する基礎知識を身に着け、関係する環境問題の解決に取り組める人材になる。

授業計画

- 第 1 回 地球環境とサステイナブルな未来
- 第 2 回 エコロジカルフットプリント 1：環境負荷
- 第 3 回 エコロジカルフットプリント 2：持続可能な資源利用とは？
- 第 4 回 生態系サービス 1：森林の水循環と水源林
- 第 5 回 生態系サービス 2：生態系サービスとその評価法
- 第 6 回 生態系サービス 3：環境税
- 第 7 回 生態系の炭素循環 1：炭素は貯まる
- 第 8 回 生態系の炭素循環 2：炭素貯金のすすめ
- 第 9 回 生態系の窒素循環 1：窒素はリサイクル
- 第 10 回 生態系の窒素循環 2：分解系の生態学
- 第 11 回 保全生態学 1：孤立生態系の生物多様性
- 第 12 回 保全生態学 2：外来種と偏向遷移
- 第 13 回 保全生態学 3：環境アセスメントと生態系復元
- 第 14 回 保全生態学 4：生物多様性オフセット
- 第 15 回 復習・総括
- 第 16 回 植生を決定する要因
- 第 17 回 世界の植生帯
- 第 18 回 日本の植生：自然林、二次林、人工林
- 第 19 回 植物群集と個体群
- 第 20 回 温暖化と植生分布
- 第 21 回 生態系の構造
- 第 22 回 生態系の動態：植生遷移
- 第 23 回 生物間相互作用 1：個体間競争
- 第 24 回 生物間相互作用 2：送粉と種子散布
- 第 25 回 樹木の進化と分類

第 26 回 葉序と分枝

第 27 回 葉の構造と光合成

第 28 回 樹木の水利利用

第 29 回 樹木病害と樹木医の仕事

第 30 回 復習・総括

授業の方法

教科書、パワーポイント、プリントを用いた講義形式

教材

教科書：石井弘明編『森林生態学』（朝倉書店 2024）

その他、授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

授業への参画 50%、試験 25%、課題への取り組み 25%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元で扱う教科書の該当部分を読み、太字で記されたキーワードを予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、教科書に記された課題および授業で課された宿題に取り組むとともに、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

担当教員は、米国の大学院で生態系解析学（Ecosystem Analysis）の Ph.D.を取得した。自然環境のしくみや生態系の機能に関する知識を運用し、神戸大学で学生指導にあたるとともに、神戸市域の約 40%を占める六甲山系における自然環境保全事業や環境アセスメント事業の評価、西宮市文化財保護委員会における天然記念物保護の検討などに関わってきた。この授業では、これらの経験を活かし自然環境を保護し人間と自然が共存する未来の実現に貢献できる人材の育成に努めていく。

動物学習心理学

授業の目的・概要

トレーナーにはレベルがある。施設によって様々な呼び方をし、レベルの数も違うが、少なくともジュニア、シニア、サブヘッド、ヘッドの4つのレベルがある、この授業では最初の段階であるジュニア・トレーナーとしての実務が出来るよう知識を身につける。

前期では条件刺激、ブリッジ、主要強化子、二次性強化子について学び。後期では基本的トレーニングについて学び、さらにトラブル・シューティングの為に LRS、タイムアウトについて学ぶ。又、予防としての脱感作の重要性を認識する。

科	生命科学科	教員	山本 聡
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年生	年間単位数	1 単位

目標

前期

アタッチメントを説明できる。水族館・動物園の機能について自分の考えを持ち、それを人に話すことができる。

古典的条件付け、オペラント条件付け、ブリッジについてその概要を説明できる。

ABC 分析を行える。

後期

動物はヒトの鏡であることを認識する。LRS とタイムアウトを適切に行える。脱感作の基本的な考え方を理解することができる。

ターゲットの使い方の多様性を知り、実行できる。

授業計画

[前期授業]

1 回 対面：トレーニングとは何か、動物との絆とは何か。

- 2 回 オンデ：トレーナーにはレベルがある。水族館や動物園の役割。
- 3 回 対面：動物飼育の知識・技術・経験を野生動物の保全に活かす。
- 4 回 オンデ：動物福祉と動物の自主性。
- 5 回 オンデ：連合学習と随伴性。
- 6 回 対面：無条件刺激と無条件反応、条件刺激とブリッジ
- 7 回 オンデ：高次条件刺激、実験と実際。
- 8 回 対面：強化、オペラントの正と負。
- 9 回 オンデ：動物はトレーナーの鏡、罰を多用することのデメリット。
- 10 回 オンデ：予測性と非予測性、動機水準。
- 11 回 対面：ABC 分析(答えを見つけるのではなく、原因を考える)。
- 12 回 オンデ：古典的条件づけ、オペラント条件付け、期待の関係。
- 13 回目 対面：サインの選択と動機水準。
- 14 回目 オンデ：ジュニア・トレーナーの安全管理。
- 15 回目 対面：前期のまとめ。
- 16 回目 対面：基本トレーニング I 対面：コールと隔離
- 17 回目 オンデ：基本トレーニング II ターゲットタッチとターゲットフォロー。
- 18 回目 対面：主要強化子と二次性強化子。欲求と報酬。
- 19 回目 オンデ：学習の定義と行動の変容。20 回目 (11/5) 対面：連続強化とジャックポット。
- 21 回目 オンデ：不定率強化と V.R.R.V.
- 22 回目 対面：V.R.R.V.に対する疑問とジャックポットの応用。
- 23 回目 オンデ：消去と自然回復。
- 24 回目 対面：ハズバンドリーの考え方。
- 25 回目 オンデ：3 種類の脱感作。
- 26 回目 対面：不快と快。
- 27 回目 オンデ：PC トレーニングと FC トレーニング。
- 28 回目 対面：後期のまとめ。
- 29 回目 対面：総まとめ (1)。

2026 年度

30 回目 対面：総まとめ（2）。

授業の方法

講義中心だが学生に質問する時間、学生同士ディスカッションする時間を随時設ける。

教材

必要に応じて事前に学生に周知

評価の方法

試験結果 80 %、授業への参画 20%で総合的に判断する。

授業外での学習方法

授業のコピーではなく、自分の考え、疑問に対する答えをまとめたオリジナルのノートを作る。

実務経験と授業科目の関係

ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所、生物学研究所で海洋哺乳類のトレーニング・ケアとそれらに必要な学問を学ぶ（比較認知学、行動生態学、実験計画・研究法など）。

帰国後は沖縄海洋研究所や淡島マリナパークなどで動物のトレーニング・ケアにかかわりながら飼育担当者の養成、アドバイスを行う。

動物機能形態学Ⅰ

授業の目的・概要

地球上の生物は多様であり、それぞれが生息環境に合わせて様々な進化を遂げてきた。
飼育員が動物の健康をまもっていくためには、動物の体のしくみを知ることが必要不可欠である。
この授業では、哺乳類と鳥類の体のしくみ（機能と形態）を学ぶ。

科	生命科学科	教員	笹野 聡美
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	獣医師歴 36 年
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

1 学期

動物の体のつくりを学ぶ。

哺乳類の骨、筋肉、皮膚や爪、角などの構造と役割を理解し、飼育管理に生かせるようになる。

2 学期

哺乳類の感覚器や内臓、鳥類の体のしくみを学び、飼育管理に生かせるようになる。

授業計画

前期

- 1 回 講師の自己紹介。この授業の目的と目標
- 2 回 哺乳類の骨、全身骨格
- 3 回 哺乳類の骨、各論
- 4 回 哺乳類の骨、関節
- 5 回 消化器、歯の構造
- 6 回 様々な歯、食性による歯の違い
- 7 回 嚥下のしくみ
- 8 回 食道の構造と役割
- 9 回 胃の構造と役割
- 10 回 様々な胃
- 11 回 腸の構造と役割
- 12 回 動物によって異なる腸の形状と役割
- 13 回 前胃発酵動物と後腸発酵動物

2026 年度

- | | | |
|------|--------------------|-------------|
| 14 回 | 草食動物の食性 | ブラウザーとグレーザー |
| 15 回 | 植物の栄養 | |
| 16 回 | 肉食動物の食べ物 | |
| 17 回 | 肝臓と脾臓の構造と役割 | |
| 18 回 | 本当の消化 | |
| 19 回 | 泌尿器の構造、動物はなぜ尿を出すのか | |
| 20 回 | 泌尿器、腎臓の構造 | |
| 21 回 | 尿が出るまで | |
| 22 回 | 肺の構造と役割 | |
| 23 回 | なぜ血液が必要か | |
| 24 回 | 感覚器、眼の構造と動物の特殊な視覚 | |
| 25 回 | 感覚器、耳の構造と動物の特殊な聴覚 | |
| 26 回 | 感覚器、鼻の構造と動物の特殊な嗅覚 | |
| 27 回 | 鳥類の体、飛行するための構造 | |
| 28 回 | 鳥類の体、羽根の構造、役割、色 | |
| 29 回 | 鳥類の体、内臓 | |
| 30 回 | まとめ | |

授業の方法

パワーポイントによるオンデマンド授業および対面授業

教材

特にないが、対面授業の時には随時プリントを配布する。

評価の方法

原則試験による評価 90～100%で評価するが、授業への参加意欲も加点し、総合的に評価する。

授業外での学習方法

動物や生物系の書籍を読んで下さい。動物園や博物館を見学して下さい。

実務経験と授業科目の関係

○経歴：秋吉台自然動物公園で勤務獣医師 11 年。海外野生動物保護センターの勤務獣医師 2 年。現在は往診専門動物病院を開業し、ふれあい動物園などの展示動物園動物、愛玩動物、野生動物などを診療および対応している。 ○役員：野生動物医学会会員、野生動物保全繁殖研究会幹事を務めている。岡山県ツキノワグマ対策業務委託（今年度から予定）。○出版：「野生動物医学（翻訳）」「インコとオウムの行動学（監訳）」「鳥類の人工孵化と育雛（編集・監訳）」。

○現在も飼育施設において診療業務を行っていることから、飼育員に必要な知識をしっかりと伝えることができると考えている。また、野生動物にかかわる業務にも携わっているので、将来野生動物関連の仕事に就きたい学生にも参考となる話題を提供することができる。

動物生態学Ⅰ

授業の目的・概要

動物園の飼育者は、飼育対象の動物以外に餌生物や飼育環境下に生息する多くの動物の知識が求められる。生物の生存するために必要な行動は、種は違えども多くの種で共通する。本講義を通して昆虫からは乳類、植物など幅広い生物の生態に関心を持つ。

科	生命科学科	教員	佐崎 順
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	専門学校教員 33 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- * 五界説を理解することができる
- * 生物分類技能検定 4 級に合格することができる
- * 生物と環境、生物と生物同士の関係について理解することができる
- * 自然環境下での生態を理解することにより、飼育生物にストレスを与えないような環境エンリッチメントを考えることができる

授業計画

- 1 回 動物生態学とは、生物の名前（和名、英名、地方名、学名）
- 2 回 生物の分類①（分類の方法、階級、種、）
- 3 回 生物の系統①（原核生物とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 4 回 生物の系統②（原生生物、菌界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 5 回 生物の系統③（植物界とは①：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
顕花植物、単子葉植物、双子葉植物とは
- 6 回 生物の系統④（植物界とは②：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
栄養根の塊根、塊茎とは
- 7 回 生物の系統⑤（植物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
葉のつき方、葉の形などの単葉・複葉、花の枚数など
- 8 回 生物の系統⑥（植物界とは④：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
分類群ごとの特徴（アブラナ科、キク科など）

- 9 回 生物の系統⑦（動物界とは①：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
ほ乳類、鳥類
- 10 回 生物の系統⑧（動物界とは②：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
鳥類、両生類、は虫類 分類群ごとの特徴
- 11 回 生物の系統⑨（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
魚類、水生生物 分類群ごとの特徴
- 12 回 生物の系統⑨（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
昆虫類①：昆虫綱と鋏角綱の違い、分類群ごとの特徴
- 13 回 生物の系統⑩（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
昆虫類② 分類群ごとの特徴
- 14 回 生態系とは（バイオスフィア実験からみる生態系）
- 15 回 生物群集とは（食物連鎖、食物網）
- 16 回 前期の振り返り
- 17 回 生物と環境①（作用：ベルクマンの法則）
- 18 回 生物と環境②（作用：アレンの法則）
- 19 回 生物と環境③（反作用）
- 20 回 生物と環境④（相互作用：種内競争、種間競争、植物）
- 21 回 生物と環境⑤（相互作用：植物、動物、干渉作用）
- 22 回 生物と環境⑥（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
- 23 回 生物と環境⑦（相互作用：動物、なわばりと行動圏）
- 24 回 生物と環境⑧（擬態と擬装について、種内競争：眼状紋、制服擬態）
- 25 回 生物と環境⑨（擬態と擬装について、偽物型擬態、攻撃擬態）
- 26 回 生物と環境⑩（異種間との関係、共生：相利共生）
- 27 回 生物と環境⑪（異種間との関係、共生：片利共生、片害）
- 28 回 生態系における異種間との種間関係の意義
- 29 回 健全な生態系とは
- 30 回 後期の振り返り

授業の方法

- * 本講義では、具体的な例を挙げて説明する
- * 必要に応じて、生物分類技能検定の過去問の解説を行う

教材

- * ニューステージ 新生物図表（浜島書店、2026）
- * 授業で使用する教材は、必要に応じて授業内で適宜配布する。

2026 年度

評価の方法

- * 試験 50%、授業への参画 20%、課題への取り組み 30%で総合的に評価する。
- * 前・後期一回ずつ抜き打ちでノートチェックを行う。講義内容だけでなく、事後学習の内容も確認する

授業外での学習方法

- * 事後授業として、授業内で疑問に思ったことを抽出し、自身で調べその結果をノートに書き出そう
- * 過去問を多く解く
- * 授業だけでなく、普段の生活の中で身近な生物（昆虫、鳥類、植物）に関心をもって観察する

実務経験と授業科目の関係

- * 生物分類技能検定 3 級資格保有
- * 海洋生物（魚類、サンゴなど）の調査・研究の経験あり
- * 環境省 みどりの国勢調査 静岡県 調査責任者（1995 年度）

両生爬虫類学Ⅰ

授業の目的・概要

両生類および爬虫類の行動や生活史を中心とした生態などについての基礎的な知識を学び、各分類群の生物学的特徴や環境への適応を理解する。あわせて、種ごとの特性に基づいた取り扱いや飼育・管理に関する知識を身につけ、動物関連分野への就職に必要な基礎的能力を養う。

科	生命科学科	教員	阿南 咲
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

両生類の分類・生活史・行動生態について具体的に理解し説明できる。

得られた知識から両生類にとって適切な調査方法や飼育方法を選択し、それについて説明できる。

後期

爬虫類の分類・生活史・行動生態について具体的に理解し説明できる。

得られた知識から爬虫類にとって適切な調査方法や飼育方法を選択し、それについて説明できる。

授業計画

1 回 オリエンテーションー本講義について

2 回 両生類について

3 回 両生類の分類

4 回 両生類の生活史①

5 回 両生類の生活史②

6 回 両生類の行動生態①

7 回 両生類の行動生態②

2026 年度

- 8 回 両生類の調査方法
- 9 回 両生類の保全について
- 10 回 両生類の飼育環境
- 11 回 両生類の飼育方法
- 12 回 日本の両生類相
- 13 回 世界の両生類相
- 14 回 試験対策①
- 15 回 試験対策②
- 16 回 爬虫類について
- 17 回 爬虫類の分類①
- 18 回 爬虫類の分類②
- 19 回 爬虫類の生活史①
- 20 回 爬虫類の生活史②
- 21 回 爬虫類の行動生態①
- 22 回 爬虫類の行動生態②
- 23 回 爬虫類の調査方法
- 24 回 爬虫類の保全について
- 25 回 試験対策①
- 26 回 試験対策②
- 27 回 爬虫類の飼育環境
- 28 回 爬虫類の飼育方法
- 29 回 日本の爬虫類相
- 30 回 世界の爬虫類相

授業の方法

パワーポイントによる講義

2026 年度

教材

必要に応じて参考資料を配布する

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業後に学習した内容を自身で復習し、ポイントとなる部分や疑問に思った点についてより詳細に調べ、ノートにまとめる

実務経験と授業科目の関係

爬虫両棲類について現在進行形で調査・研究している経験を踏まえて授業を行う

アナウンス演習 I

授業の目的・概要

本授業では、人前で自分の考えを分かりやすく伝えるための基礎的なアナウンス技術や表現力を身につけることを目的とする。自己紹介やスピーチ発表、本紹介、動物解説などを通して、発声・話し方・構成力・プレゼンテーション能力を段階的に学習する。また、パワーポイント作成や原稿作成、グループ活動を取り入れ、相手に伝わる表現方法や協働力を養う。さらに、小学校訪問やイベント企画など実践的な活動を通して、企画力・コミュニケーション力・現場対応力を高め、動物業界で必要とされる発信力と社会性を育成する。

科	生命科学科	教員	荒田あかね、多田光里
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	イルカショートレーナー3年半
対象年次	1年	年間単位数	2単位

目標

イベントやショーを想定したアナウンスや解説の上達に向けて、内容を整理し、聞き手に配慮しながら分かりやすく自信をもって伝えることができるようになる。

場数を踏むことにより、人前で話すことへの抵抗を少なくすることができる。

授業計画

第1週 自己紹介、アイスブレイク

第2週 自己紹介、印象に残る為には、人前での話し方について

第3週 「私の夢について」準備

第4週 「私の夢について」発表

第5週 「本紹介」準備（1）一読む

第6週 「本紹介」準備（2）一原稿作成/発表

第7週 「本紹介」発表

2026 年度

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 第 8 週 | 「生き物解説板」準備 |
| 第 9 週 | 「生き物解説板」評価会 |
| 第 10 週 | 「好きな動物施設」準備（１）—パワポ作成 |
| 第 11 週 | 「好きな動物施設」準備（２）—パワポ作成続き/原稿作成 |
| 第 12 週 | 「好きな動物施設」発表（１）—約 15 人 |
| 第 13 週 | 「好きな動物施設」発表（２）—約 15 人 |
| 第 14 週 | 「飼育棟生き物解説」準備 |
| 第 15 週 | 「飼育棟生き物解説」リハ |
| 第 16 週 | 「小学校訪問」について |
| 第 17 週 | 「小学校訪問」—企画の順序について |
| 第 18 週 | 「小学校訪問」—班決め |
| 第 19 週 | 「小学校訪問」—案出し |
| 第 20 週 | 「小学校訪問」—企画書作成 |
| 第 21 週 | 「小学校訪問」—資料作成 |
| 第 22 週 | 「小学校訪問」—原稿作成 |
| 第 23 週 | 「小学校訪問」—同クラスでリハーサル |
| 第 24 週 | 「小学校訪問」—他クラスに向けてリハーサル |
| 第 25 週 | 「小学校訪問」—修正・調整 |
| 第 26 週 | イベント企画案出し |
| 第 27 週 | 企画書作成 |
| 第 28 週 | イベント準備（１）—班分け/分担決め |
| 第 29 週 | イベント準備（２）—班活動 |
| 第 30 週 | イベント準備（３）—完成 |

授業の方法

実践

2026 年度

教材

なし

評価の方法

成果発表 60%、授業への参加意欲・課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

発表テーマを考え、まとめる。

実務経験と授業科目の関係

元ショートトレーナーの経験を活かし、見本を行い指導する。

家畜学 I

授業の目的・概要

本授業では、家畜動物の定義や役割について理解を深めるとともに、ウシ・ブタ・ウマ・ニワトリを中心とした主要家畜の特徴を学ぶ。各家畜の体の構造や生理的特徴、品種、飼育管理、栄養、施設設備、疾病について体系的に学習し、動物業界で必要となる基礎知識を身につけることを目的とする。また、家畜伝染病予防法をはじめとした衛生管理や疾病予防について理解し、動物福祉や安全な飼育管理への意識を養う。実際の現場で求められる観察力や基礎的判断力を培い、畜産・動物関連分野への理解を深める授業とする。

科	生命科学科	教員	金田
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	観光牧場飼育員 4 年
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

前期

家畜動物についての概要、ウシの体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病およびブタについてのウシの体の特徴について理解することができる。

後期

ブタ飼育に関する知識、生産物や疾病およびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解することができる。

授業計画

- 1 回 家畜動物の定義について
- 2 回 ウシの概要について（ウシとは）
- 3 回 ウシの概要について（ウシとは）、ウシの体の構造について（前軀）
- 4 回 ウシの体の構造について（後軀）

- 5 回 ウシの体の構造について（内臓、生理的特徴）
- 6 回 ウシの品種について、ウシの飼育について
- 7 回 ウシの飼育について（施設について）
- 8 回 ウシの飼育について（餌、栄養について）
- 9 回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法）
- 10 回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法対象外の疾病について）
- 11 回 ブタの概要について
- 12 回 ブタの体の構造について（前軀）
- 13 回 ブタの体の構造について（後軀）
- 14 回 ブタの飼育について（施設について）
- 15 回 ブタの飼育について（餌、栄養について）
- 16 回 ブタの疾病について
- 17 回 ウマの概要について
- 18 回 ウマの体の構造について（前軀）
- 19 回 ウマの体の構造について（後軀）
- 20 回 ウマの品種について（軽種、中間種）
- 21 回 ウマの品種について（重種、ポニーなど）、ウマの飼育について（施設について）
- 22 回 ウマの飼育について（餌について）
- 23 回 ウマの飼育について（用品について）
- 24 回 ウマの疾病について（蹄に関わる疾病）
- 25 回 ウマの疾病について（蹄以外の疾病）
- 26 回 ニワトリの概要について
- 27 回 ニワトリの体の構造について
- 28 回 ニワトリの品種について
- 29 回 ニワトリの飼育について
- 30 回 ニワトリの疾病について

授業の方法

板書した内容を教科書・自作プリントを用いて内容を解説していく。

教材

農学基礎セミナー 新版家畜飼育の基礎

⇒著者：阿部 亮、発行日：2014 年 1 月 15 日 第 6 刷発行

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをまとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

観光牧場にてウマの飼育管理及びウシ・ブタ・ヒツジ・ヤギ・ラマなどが飼養される環境で勤務していたため、家畜動物の知識・技術を教えることができる。動物園にて実務経験あり。

トレーニング概論・実習Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、犬の行動学とトレーニング理論を基礎から学び、家庭犬に対する適切な接し方や指導技術を実践的に身につける。散歩や基本トレーニングの実技を通して、犬との信頼関係の構築方法を学ぶとともに、犬の進化や家畜化、犬種ごとの特性、気質、成長過程、社会化について理解を深める。また、ボディシグナルやカーミングシグナル、ストレス反応など、犬の行動や感情表現を読み取る力を養い、問題行動への適切な対応方法を学習する。講義と実習を繰り返し行うことで、動物福祉に配慮した安全で適切なトレーニング技術と観察力、コミュニケーション能力を育成する。

科	生命科学科	教員	釘宮美保
コース	ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

前期

家畜化された犬の歴史を学び犬種に対する知識を深めることができる。

犬種による特性と行動、学習の仕方について学ぶ。

人間社会に慣れるために仔犬期の社会化について理解することができる。

後期

犬のボディシグナルを学ぶことで犬の意思や気持ちを理解することができる。

犬のストレスの原因と解消の仕方を学ぶ。

授業計画

第1週 オリエンテーション

第2週 散歩の仕方

第3週 家庭犬のトレーニング 実技①

第4週 家庭犬のトレーニング 実技②

第5週 犬の進化と家畜化

第6週 犬の気質

- 第 7 週 犬種による特性と行動/犬種研究
- 第 8 週 家庭犬のトレーニング 実技③
- 第 9 週 家庭犬のトレーニング 実技④
- 第 10 週 脳と行動の関係
- 第 11 週 仔犬の成長過程
- 第 12 週 仔犬の社会化
- 第 13 週 社会的階級制度
- 第 14 週 家庭犬のトレーニング実技⑤
- 第 15 週 家庭犬のトレーニング実技⑥
- 第 16 週 家庭犬のトレーニング 実技⑦
- 第 17 週 家庭犬のトレーニング 実技⑧
- 第 18 週 犬の言葉/ボディシグナル(聴覚・嗅覚によるコミュニケーション)
- 第 19 週 犬の言葉/ボディシグナル(視覚によるコミュニケーション)
- 第 20 週 家庭犬のトレーニング 実技⑨
- 第 21 週 家庭犬のトレーニング 実技⑩
- 第 22 週 社会的闘争の解決
- 第 23 週 犬のストレス(ストレス反応サイン)
- 第 24 週 犬のストレス(ストレスを軽減するためには)
- 第 25 週 カーミングシグナル
- 第 26 週 犬のパーソナルスペース/咬みつく犬
- 第 27 週 家庭犬のトレーニング 実技⑪
- 第 28 週 家庭犬のトレーニング⑫
- 第 29 週 家庭犬のトレーニング⑬
- 第 30 週 1 年間の総まとめ

授業の方法

講義形式にて手法を説明するが、実演を中心に進めていく。

教材

テリーライアン著 犬のしつけ方教室

評価の方法

試験(筆記&実技)80%、授業毎に記入する実習記録 20%で総合的に評価する。

2026 年度

授業外での学習方法
授業毎に記入する実習記録を読み返し、動物へのトレーニング方法の理解を深める

実務経験と授業科目の関係
動物病院にて犬のしつけ方教室を実施